

授 業 科 目 名	環境教育論	教 員 名	坂倉 真衣	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒業要件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	SID320	配当年次	3年後期		小幼コース	選択
単 位 数	2単位				幼保コース	選択
科 目 目 的	大学が独自に設定する科目（幼稚園及び小学校）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
科 目 目 的						
系 列						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境教育の目標、内容、方法、そして、発展過程や理念について理解する。</li> <li>・幼稚園や小学校における環境教育のカリキュラムや授業構成の方法を理解する。</li> <li>・幼稚園や小学校における環境教育の現状とその課題を把握する。</li> <li>・地域における環境教育の事例から、現在の環境教育の課題、教員として必要とされる資質・能力について検討し考えを持つことができる。</li> </ul>					
授 業 の 概 要	<p>科学技術の発展やそれに伴う経済成長は世界的な環境問題（地球温暖化、生物多様性の喪失等）を引き起こした。このような状況下であるため、環境教育の推進は喫緊の課題である。そして、環境教育を教える教員は環境教育に関する基礎的知識・技能を身につけることが必要である。そこで、本授業では、環境教育の発展過程、現状、課題を踏まえ、環境教育の目的や内容及び方法と環境教育のカリキュラムや授業構成の特質を明らかにすることを目的とする。また、現地調査や、それに基づいたディスカッションを実施し、現在の環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力について自ら考察できるようになることを目標とする。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p><u>第1回：世界が抱える環境問題と環境教育の目標、内容、方法</u> 地球温暖化、生物多様性、食料・水・人口に関する環境問題の現状及び世界的な環境問題への諸国の対応、環境教育の目標、内容について解説する。また、現在、学校における環境教育の進め方を理解し、環境教育を学ぶ重要性について検討する。</p> <p><u>第2回：環境教育の理念と持続可能な開発のための教育（ESD）</u> 環境教育に関する国際的な取り組みや持続可能な開発の理念を踏まえて、環境教育の発展過程を解説する。それを踏まえ、その基盤となる環境倫理的な児童の情操及び環境倫理思想の歴史について検討する。</p> <p><u>第3～9回：地域における環境教育事例①—宮崎県高千穂町土呂久地区（仮）</u> 地域における環境教育の事例として宮崎県高千穂町土呂久地区で起こった鉱害について学習する。土呂久地区へのフィールドワークを中心に、土呂久鉱害について学び、地域事例から現在の地域環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力等について考察を行う。</p> <p>・第3、4回：事前学習 インターネット、視聴覚教材、土呂久歴史民俗資料室への訪問等を通して、土呂久鉱害の歴史、現状について理解する。第5回以降のフィールドワークに向けて、自ら「問い」を持ち、疑問点、課題等をまとめる。</p> <p>・第5、6、7回：土呂久地区フィールドワーク 土呂久地区へフィールドワークを行う。土呂久地区の豊かな自然環境を自らの目で見、現地の方の講話を聴き、土呂久の現状や人々の想いを理解する。</p> <p>・第8、9回：事後学習、まとめ（仮） 土呂久地区へのフィールドワークで学んだことをまとめ、報告を行う。各自の報告の後、グルー</p>					

	<p>ブディスカッションを通して、土呂久の事例から、現在の環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力について考察し、まとめる。</p> <p><u>第10～13回：地域における環境教育事例②—綾ユネスコエコパーク（仮）</u></p> <p>地域における環境教育の事例としてユネスコエコパークに登録されている綾町での取り組みについて学習する。綾ユネスコエコパークへのフィールドワークを中心に、土呂久鉦害について学び、地域事例から現在の地域環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力等について考察を行う。</p> <p>・第10回：事前学習</p> <p>インターネット、視聴覚教材等をもとに、綾町の歴史、ユネスコエコパークに登録された経緯、現状について理解する。第11回以降のフィールドワークに向けて、自ら「問い」を持ち、疑問点、課題等をまとめる。</p> <p>・第11、12回：綾町フィールドワーク</p> <p>綾町へフィールドワークを行う。綾町のユネスコエコパークの仕組みを実際に自分の目で見ることで実感を持って理解する。またユネスコエコパークセンターの方の講話を聴き、地域での環境教育の取り組みや、学校教育と連携した取り組み等についての現状を知る。</p> <p>・第13回：事後学習</p> <p>綾町へのフィールドワークで学んだことをまとめ、報告を行う。各自の報告の後、グループディスカッションを通して、土呂久の事例から、現在の環境教育における課題、教員として必要とされる資質・能力について考察をし、まとめる。</p> <p><u>第14回：幼稚園・小学校における環境教育の現状とその課題</u></p> <p>現在、日本各地、宮崎県内で行われている幼稚園・小学校における環境教育実践例をグループで調べ、発表する。各グループの発表を踏まえ、その課題について検討する。</p> <p><u>第15回：本授業のまとめ</u></p> <p>本授業のまとめとして、これまでの学習、ディスカッションを踏まえ幼児期・児童期の環境教育の在り方について検討する。</p> <p>期末試験：試験期間中に実施</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>授業時に課す演習レポートの内容70%、定期試験の成績30%で評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
<p>授業外学習 について</p>	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回講義後に、次回の講義内容を伝えるので、事前にテキストの関連箇所を読み、不明な点や疑問点を明確しておくこと。</p> <p>事後学習：毎回の講義内容や調査・実験に関するレポートを課すので、次回までにまとめておくこと。</p> <p>その他：毎週土日に必ず振返りを行うこと。</p>
<p>テキスト</p>	<p>・『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』、国立教育政策研究所教育課程研究センター、東洋館出版社</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境教育指導資料 [小学校編]」、国立教育政策研究所、2007、東洋館出版社。</li> <li>・「環境教育を学ぶ人のために」、御代川貴久夫、関啓子、2008、世界思想社。</li> </ul> <p>上記以外は、授業の展開に合わせて紹介する。</p>
<p>担当者からの メッセージ</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週火曜日 9:00～12:00</p>